平成９年度第２回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：　１９９６年１２月１４日（土）　１３：００－１８：００
場所：　愛知県中小企業センター（名古屋）
出席者：　宝谷会長、石渡副会長、郷（通）副会長、青木、赤坂、垣谷、桂、木島、
桐野、郷（信）、日比野、安永

報告事項：

１．　９６年度年会報告（宮本）　資料１
第３４回年会（つくば）の報告があった。会計については参加費・広告・展示の収入が増加し学会長室への返金は年会準備金５０万も含めて２７８万余円。また従来年会が負担していた運営委員会などへの弁当代は今年から学会が負担することとなった。今年会の特徴としては、学生参加者の増加・email による参加手続きと要旨の提出・シンポジウムの内容の充実などが挙げられた。

２．　９７年度年会準備状況（郷（信））
来年度の年会（京都大）の準備状況についての報告があった。シンポジウム会場６カ所とポスター会場４カ所を確保、ポスター間の通路間隔は 260-290cm となる予定。また収支見込みは収入８４０万、支出７８５万（１３００人参加として)。各締め切りのスケジュールは後日決定するが、ネットワークによる申し込みは email ではなくトラブルの比較的少ない Web を利用したいとのこと。

３．　９８年度年会開催について（宝谷）
９８年度の年会（九州）について、年会準備委員長に太和田氏、プログラムの立案は児玉氏が担当することが報告された。

４．_ XIII　International Biophysics Congress 開催の件（郷（信））　資料２、３
１９９９年９月１９日から２４日の日程でインドのニューデリーで行われる第１３回国際生物物理学会について、１年後をめどにスピーカーを決定したいので半年後くらいから推薦のお願いを始めたいとのこと。また今年の８月にアムステルダムで行われた第１２回国際生物物理学会の報告も併せて行われた。開催国オランダからの参加が非常に少ないなど

熱気に欠けた点が指摘された。

５．　東アジア生物物理学シンポジウム準備状況（宝谷）

北京において来年５月１９日から２３日の日程で開催される第２回東アジア生物物理学シンポジウムの準備状況についての報告があった。中国側から送られたパンフレット（2nd Announcement）は合計２５０部、委員に各２部ずつ配られた残りは学会事務局にあるので参加希望者は申し出てほしいとのこと。また郷（信）委員より、中国側は日本からの参加をある程度見込んで準備を進めているので、できるだけ参加してほしいとの要望が出された。

６．　科学技術基本計画と工学系学協会の活動について（宝谷）　資料４

７月に閣議決定された科学技術基本計画において、平成１２年度までの５年間に政府科学技術関係経費として総額１７兆円が明記され、学術団体の強化・支援を謳っていることもあり本学会にも予算的に公的補助の可能性があるということが報告された。

７．　「科学技術と政策の会」２周年記念シンポジウム報告（桐野）　資料５

上記シンポジウムの参加報告があった。テーマは「新時代への国家戦略と科学技術政策」。

８．　会員、物理学会生体物理分科連絡担当の報告（垣谷）　資料６

生物物理学会員数の推移についての報告があった。９６年１０月末現在の会員数は３４７９で微増傾向。また現在物理学会の分科の見直しと再編が活発な状況であり、それに伴って化学物理分科から生体物理と合同の分科を作りたいとの要望が出された件についての報告があった。

歴代の生体分科世話人と生物物理学会運営委員に対するアンケートの結果より、今の段階では意見をまとめるのは不可能であると判断し今回の申し出には応じられないとしたとのこと。また運営委員会内でも、学術会議の委員の枠などのデリケートな問題が絡むので、再編は相当慎重に考えるべきとの意見が出された。

９．　科研費（学術定期刊行物）申請の件（石渡）　資料７

生物物理学会として上記科研費の申請を行ったことが報告された。

１０．　情報学シンポジウムの共催の進行状況（安永）　資料８

９７年１月１６・１７日に行われる上記シンポジウムの準備状況について報告があった。具体的には、募集論文の査読とプログラムの策定。

１１．　光生物学協会委員会報告（津田）　資料９
上記委員会の議事に関しての報告があった（資料のみ）。
光生物学協会委員に津田基之氏を推薦したとの報告があった。（宝谷）

１２．　平成８年度島津賞受賞の件（郷（信））
学会として推薦した松本元次期会長の受賞にあたって、受賞記念記事として学会誌に研究内容の紹介論文を書いてほしいとの要望が出された。また推薦に際して、各賞の性格を表すリストがあれば賞選考委員が推薦者を決めやすいとの意見が出、リストを作製することが決まった。

１３．　平成９年度科研費研究成果公開発表（Ｂ）の見送り（松本）
上記科研費への申請を見送ることが報告された。またそのことに関して、文部省に対するゼスチュアの意味もあるので、学会としてこの種の申請はきちんとしておく方がよいとの意見が出された。

１４．　米 Protein Society との共同学会主催について（郷（信））
上記学会の共同主催について、米国側が検討の結果消極的となり、共催に関する話は suspend になったとの報告があった。

１５．　研連改組の動き（郷（信））
学術会議研究連絡委員会の改組の動向についての報告があった。生物物理学研連を物理学研連内の専門委員会にするという動きについて、あくまでも生物物理の独立を主張していくべきとの意見が出され、和田氏に強く働きかけをすることが確認された。

１６．　高エネルギー研究所の機構改革について（郷（信））
機構改革の結果つくばに設立される物質構造科学研究所が構造生物学を重視し、１年目に１部門、２年目以降も複数の部門が設置される見通しとの報告があった。

議題：

１．　名誉会員の年会参加登録費、懇親会費について（宝谷）
上記について、参加登録費・懇親会費とも無料（年会負担）とすることが提案され了承された。

２．　削除

３．　学術会議会員候補者承認（宝谷）
９年７月にある学術会議会員選挙について、物理分野の候補者として和田氏（推薦人・・・伏見譲）を、分子生物学分野に掘田氏（推薦人・郷（通））を推薦することが承認された。また郷（通）委員より、第１６期日本学術会議研連委員（総勢２,３７０名）に８４名（３.５％）の女性委員が任命されており、女性委員が所属している研連数は６２で全研連数の３４.４％を占めている。しかし、生物物理研連には女性委員が一人もいないという問題が指摘され、考慮の必要があるということで意見の一致をみた。

４．　東アジア生物物理学シンポジウム若手旅費援助について（宝谷）
上記について、学会の特別会計から援助を出すことが了承された。アムステルダムでの援助実績は約１００万円。申請は会長と副会長の３人に提出され、運営委員に意見を聞いた後当選者・支給額を決定するというプロセスを踏むことが決まった。

５．　編集実行委員長を自動的に運営委員にする件（宝谷）
意見交換の必要上、編集実行委員長が運営委員として委員会に出席することが望ましいとの提案を受け、上記について議論した結果、自動的に委員にすることはせず従来通り選考により決定する。編集実行委員長が委員になっていなければ、会長の推薦枠を活用するようにする。運営委員にならなかった場合は observer として招待し運営委員会に出席してもらうように務める。また運営委員になった場合でも、編集以外の業務は割り振られないことが確認された。

６．　生物物理編集実行委員長・副委員長・委員選考規定の件（石渡）　資料１０
上記選考規定について、年会の折りに配布された津田案をもとにまとめられた規定文面を討議した。最終案は後日配布。

７．　編集実行委員案の承認（美宅）　資料１１
編集実行委員長より編集委員案と中部地区編集委員案が提出され基本的に承認された。明確な免疫規定は存在しないが、編集委員はいろいろな人が経験した方がよいとの意見により、近い過去に委員を経験した人については委員長に確認をとることとした。また委員案としてはある程度本人の了承をとった上で提出してもらった方がよいとの意見が出た。

８．　分野別専門委員選考の件（石渡）　資料１２
上記についてアンケートによる得票の集計結果が提示された。投票により大局的なバランスがとれるのかどうかを疑問視する意見が出たが、母数を増やせば問題ないのではとの意見も出た。改正意見がある場合の窓口は石渡副会長と郷（信）委員、最終決定は次回運営委員会で行う。

９．　科研費委員の免疫記録の仕方について（郷（通））
過去の科研費審査委員の記録が存在しないことにより、免疫規定がうやむやになるおそれがあるので、委員の氏名を会長記録として（公表せずに）引き継いでいくことが提案され了承された。

１０．　電子図書館サービスの著作権料など（安永）　資料１３
電子図書館サービスが再来年度より本格運用されるにあたり、著作権使用料・電子図書館使用料（画面表示、印刷）・使用料の徴収法などについて学会として考えを決めていく必要があるとの提案があった。

１１．　物理学会ホームページ WWW サーバページの内容（安永）　資料１４
物理学会より生物物理関連のホームページをリンクしたいとの要望があり、生物物理学会としてはどのレベルまでのリンクを作るか、リンク集の文責の所在はどうするかといった問題が議論された。その結果対応は安永委員に一任された。

１２．　９７年度シンポジウム企画（郷（信））　資料１５
１２月１２日現在で提案されたシンポジウム企画２９演題について、詳細に検討の上１２月２５日締め切りで意見（新規提案もふくむ）を郷（信）委員まで寄せるようにとの要望があった。最終的に演題は１７程度に絞る必要があるため、バランスや同義性をよく考えて判断をしてほしいとのこと。その判断には似た演題の合併などの深く踏み込んだ提案も

含まれる。最終決定権は郷（信）委員と赤坂年会担当委員にあることが確認された。

１３．　年会発表資格について（石渡）
年会において非会員も発表できるようにすべきだとの提案があった。方法としては 1)発表する非会員の参加費を（会員になったほうが得な程度に）高く設定する　2)会員から発表権を一時借りるスポンサー制度を導入する　の２つが提案され議論されたが、結論は出ず今後ともこの問題を議論していくこととなった。

１４．　次回、次次回運営委員会日程（宝谷）
次回：平成９年４月５日（土）１時より
次次回：平成９年７月５日（土）１時より
場所：愛知県中小企業センター（予定）

＜以上＞